

## 入試説明会用「日本語教育学位取得プログラム修了証」履修要項

一橋大学言語社会研究科第2部門

「日本語教育学位取得プログラム修了証」（以下、「修了証」という）とは、言語社会研究科の修士課程の修了要件を満たし、かつ、日本語教育学位取得プログラムの指定授業科目を一定の条件を満たして修得した場合に、通常の学位記に加えて授与されるものです。平成29年度入学生から、その修得条件が変わり、法務省の策定した「日本語教育機関の告示基準」（平成29年8月1日施行）をみたすものとなっています。

同「修了証」の取得を目指す方は、以下の注意事項をよく理解したうえで、時間割を組むようにしてください。計画的に履修していかなければ2年間での取得が難しくなります。

なお、この修了証は、修士課程の修了要件ではありません。修了証を取得せずに、修士号をとって言語社会研究科の修士課程を修了することも可能です。

### （1）修了証取得に必要な単位数 **※修士課程の修了要件ではありません。**

同プログラムの授業科目は以下の5分野からなります。修了証を取得するためには、表1のとおり、各分野に定める単位数を修得し、かつ、合計26単位（実習科目2単位以上4単位以内を必ず含むこと）を修得してください。

表1 日本語教育学位取得プログラム修了証授与に必要な分野別単位数

分野	単位数
1. 社会・文化・地域	4
2. 言語と社会	4
3. 言語と心理	4
4. 言語と教育	8(2~4)
5. 言語一般	6
合計	26(2~4)

（ ）は実習単位数

### （2）各分野に該当する授業

- それぞれの分野に該当する科目については別添資料③の「2022年度プログラム修了証対象科目表」を参照してください。  
ただし、これはあくまでも2022年度の開講科目です。2023年度の開講科目については、入学後のガイダンスで改めてお伝えします。
- 「国内実習」を履修する学生は、日本語教育経験の有無にかかわらず、実習を履修する直前の学期に「日本語教育学講義 J」を履修しなければなりません。「国内実習」を履修しない学生は「日本語教育学講義 J」を履修することはできません。
- 日本語教育経験のない学生が「国内実習」に参加するには、その前の学期に、「日本語教育学講義 A」を履修し、単位を取得しておく必要があります。
- 日本語教育経験のない学生は「日本語教育学講義 G」も実習の前に履修しておくことを推奨します。
- 「日本語教育経験がある」と判断されるには一定の条件があります。教員にご相談ください。

### (3) 実習参加資格

実習には、一橋大学国際教育交流センター内で行われる「国内実習」と、海外の大学で行われる「海外実習」の2種類があります。実習に参加するためには、一定の条件を満たす必要があります。

ただし、現在、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、実習に関わる科目に大きな変更が生じており、実習の時期や方法等に未確定な部分が多くあります。受講の際にあらためて確認してください。

#### 【国内実習】

1. 修士2年次の春夏学期に実施します。この時期は、修士論文のための研究活動や就職活動などへの影響も大きく生じます。その点をふまえたうえで、実習への参加を検討してください。ただし、実習単位がなければプログラムの修了証は得られませんので、注意が必要です。

#### 【海外実習】

1. 2023年度の海外実習の時期や実施形態は、未定です。状況によっては中止、または、オンラインでの実施となる可能性もあります。
2. 日本語教育未経験者は、海外実習だけではプログラム修了証を取得することはできません。必ず国内実習を履修してください。
3. 海外実習は全日程参加できる学生のみが履修可能です。理由の如何にかかわらず、実習期間を短縮することなどはできません。また、現地で個人的な予定を入れたり、別行動をしたりすることもできません。
4. 国籍によってビザの取得が必要な場合は、各自で手続きをする必要があります。

26単位をご自身の学習計画に合わせ、2年間かけて、バランスよく効率的に取るように工夫してください。

ご不明な点は、下記教員までお気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先：

太田陽子：[yoko.ota@r.hit-u.ac.jp](mailto:yoko.ota@r.hit-u.ac.jp)

庵功雄：[isaoiori@courante.plala.or.jp](mailto:isaoiori@courante.plala.or.jp)

西谷まり：[mari@econ.hit-u.ac.jp](mailto:mari@econ.hit-u.ac.jp)

柳田直美：[n.yanagida@r.hit-u.ac.jp](mailto:n.yanagida@r.hit-u.ac.jp)